

令和5年度 第3回 府中市地域公共交通活性化協議会 議事録

1 開催日時

令和5年10月3日（火） 午前10時00分～

2 開催場所

府中市役所本庁舎4階 第1委員会室

3 出席者

（委員）

平野 勝与	大久保 富秋	桐島 一義	山崎 武志	飯島 正泰（代理）	
宇田 雅英	高山 俊宏	宮口 泰彦	井上 邦康	横島 幸宏	中井 孝司
栢 英彦	河毛 茂利	木曾 孝彦	渡邊 一成		

（事務局）

建設部都市デザイン課 課長 日野 雄蔵

建設部都市デザイン課 係長 信岡 知典

府中市都市デザイン課 主任主事 岡田 啓伸

4 異動に伴う選任委員紹介

（一社）協和元気センター 井上 邦康

5 欠席委員

藤井 剛

6 議事

第1号議案 府中市地域公共交通計画策定について

7 配布資料

資料1	府中市地域公共交通活性化協議会 委員名簿
資料2	府中市地域公共交通活性化協議会 配席図
資料3	地域公共交通計画の概要と留意点
資料4	府中市の地域特性と問題点、取り組むべき課題について
資料5	府中市地域公共交通計画の計画体系（案）
資料6-1	市民アンケート調査票（案）
資料6-2	市民アンケート調査動機づけ資料（案）
資料7	乗合タクシー登録者アンケート調査票（案）
資料8	バスの乗り方教室について

8 傍聴者

9 議事の内容

【会長】

皆さん、おはようございます。

福山市立大学渡邊でございます。よろしくお願いいたします。

ご存知の方も多いと思いますが、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律が今年の春に公布され、10月1日から全面施行となりました。

これに伴って、身近なところではJR芸備線の広島県と岡山県の県境の区間について議論する協議会が設置される見込みがあるという話が出てきております。

個人的には、鉄道をどうするかという議論以前に、地域の未来をどう考えるのかという議論をすべきだと思っており、鉄道をバスに変えるというのは止血処理ですので、そのような処理をしてもこれからの地域の未来はないと思っています。そのような観点での議論や計画を考えるべきだと思います。

正直に申し上げて、JR福塩線もののうとしている場合ではないと思っていますので、今回の府中市地域公共交通計画の策定に際してそのようなことも考えていく必要があると思います。

府中市地域公共交通計画にどのレベルまで詳しく記載するのかという議論もありますが、従来型の止血処理ではない公共交通の在り方を本会議等で考えていく必要があると思います。

本日の議題は1点のみで、地域公共交通計画策定についてです。何かを決めるというよりは資料に基づいてご意見をいただきたいという場です。よろしくお願いいたします。

第1号議案 府中市地域公共交通計画策定についてです。

配布資料の資料3から資料7までがこの計画策定に関する資料です。

一括して説明すると長くなりますので、2つのパートに分けたいと思います。前半は、資料3から資料5までを使って計画策定の本質的な部分を説明し、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。後半はアンケート調査について資料6-1、資料6-2、資料7に基づいて説明し、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは前半部分の資料3「地域公共交通計画の概要と留意点」から、資料5「府中市地域公共交通計画の計画体系（案）」までを一括して説明をお願いいたします。

【バイタルリード】

○計画策定業務の計画策定に係る支援業務受託の株式会社バイタルリードより「資料3 地域公共交通計画の概要と留意点」、「資料4 府中市の地域特性と問題点、取り組むべき課題について」、「資料5 府中市地域公共交通計画の計画体系（案）」を基に説明。

【会長】

ありがとうございました。初見の資料ということもあり、計画の基本的な考え方について丁寧にご説明いただきました。今ご説明いただきました資料3から資料5までについて、どこからでも結構ですので、お気づきの点等ありましたらご意見をいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

まずは私の方から最初に聞きますので、その間に皆さんにはお考えいただきたいと思います。

資料４の p. 12 の大きな問題として、「取り組むべき課題と対応方針」ということで３つの課題と方針が書いてあります。その前の文中に「移動需要」という言葉が使われているのですが、これについての意味合いに違和感を覚えており、恐らくここで使われている「移動需要」は公共交通の移動需要という意味合いに聞こえます。本来であれば自家用車利用を含めた移動需要を把握した上で、現在公共交通を利用している人がどのくらいなのか、または自家用車を利用している人の中で公共交通に転換してくれる人がどのくらいいるのかと考えると、この「移動需要」という言葉をどう把握して取り組むのかという点はかなり重要だと思います。感覚的に、旧府中市に在住する方は福山エリアとの移動が多いと思います。旧上下町の方は三次市に行く方が多いのではないかと思います。しかし、そういった隣接する市町との移動の話が一切出てきていません。公共交通計画の根本的なところで把握すべき問題であるため、交通の移動需要の実態のデータを示して、この「移動需要」という言葉を丁寧に取り扱って計画を策定する必要があるのではないかと考えます。ご検討いただけたらと思います。

他にありますか。

【委員】

資料４の p. 3 にある山ダイヤの図表４「ＪＲ福塩線と路線バスの上下線の運行状況」についてですが、その中で「運行していない時間帯」とあります。その点について提案があります。路線バス上下線の 6:30 上下発便、18:00 上下発便は、ほとんど利用が見られない状態となっています。それを今運行していない時間帯となっている 8:00～10:00 に入れてもらえたら、運転手の拘束時間も少し短くなると思います。現状、旧上下町在住の運転手は１名しかいません。現状、上下発の早朝便は２便ありますが、この運転手がいつ退職するかわからない状況にあり、もし退職した場合は別の運転手が旧府中市から旧上下町へ出勤することになります。旧上下町まで通勤するのに、私であれば１時間近くかかります。拘束時間が長い上に通勤時間が往復２時間増えると、ただでさえ運転手不足で休日出勤もしているのに、休息時間がさらに減ることになります。そういった状況のため、6:30 及び 18:00 上下発便について運行時刻の変更を検討していただけたらと思います。運転手としては拘束時間が短くなり大変助かります。よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございました。非常に重要なご提案だと思います。このページの図を見ると、18:00 は同一時間帯に逆方向の便が運行している状況ですので、そういったところの改善は当然あると思います。一方、交通事業者さんもそれぞれで人員の都合があると思いますので、そのあたりは調整が必要かと思います。

現在運行していない時間帯に運行するかという点は、この計画に記載するのでしょうか。その後の実施計画で行うことになりますか。地域公共交通利便増進計画を作るのでしょうか。地域公共交通利便増進計画というのは実施計画です。今回策定する地域公共交通計画はマスタープランなので、ダイヤの調整は実施計画レベルになります。そうすると地域公共交通利便増進計画を策定することになるとは思いますが、事務局はどのように考えていますか。

【事務局】

実施計画は個別に検討することになると思います。先程のご提案を含めてですが、今後交通事業者さんとも調整していく中で計画として作るのか、それとも個々の協議によって進めていくのかということは、これから検討していきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。少なくともマスタープランで書けるとしても、交通事業者間の運行を調整する程度のことしか書けず、具体的にどの便をどう動かすかというのはこのマスタープランではおそらく書けないと思います。実務的にも突き詰める方法もあるでしょうし、あるいは先程私が申し上げたように、マスタープランの下に地域公共交通利便増進計画という実施計画を作って、その中で位置づける方法もあると思います。それは恐らく事務局の意向もあると思います。今のご意見は非常に貴重だと思いますし、この計画の中でも大変重要な位置づけにあると思います。

他、ご意見はありますか。

【委員】

p. 12～13 で「取り組むべき課題と対応方針（４）移動需要の創出と、交通事業者の収益拡大」というところがありますが、この収益拡大の中に「新しい運賃制度の導入や貨客混載等」とあります。これだけでは非常に弱いという印象です。今利用していただいている運賃は正直に言えば安い運賃です。安くしても高くしても損をしてしまいます。移動人口が減っている中で収益を確保する手段は、どちらかというとパフォーマンスの課題が強いと感じます。私どもは運行を維持に向けた運転手不足の解消のため講習に投資をしています。収益が多いわけではありませんが、運行維持、給与の確保をするためにも一刻も早く補助をしていただいて、幹線として維持できる形にしていきたいです。先程も委員が申し上げたようにＪＲ福塩線との接続もあるため、色々な運用や手段を考えていきたいと思っています。多くの方に利用してもらえよう、例えばＪＲとバスの両方で使える定期券等を考え、また市に利用方法を周知していただく等連携していく必要があると思います。

そして旧上下町の話が出ましたが、弊社は旧上下町で委託販売を行っています。しかし高齢化で次の担い手がいません。将来的には定期的の販売というものが少しずつなくなっていくので、新たなＩＣカードを導入しデジタル化を進め、販売もカバーできるように考えていきたいと思っています。その辺りもしっかりと計画の中に入れていただければと思っています。

【会長】

ありがとうございました。続いてお願いします。

【委員】

タクシーの統廃合の話が出ていますので、この観点からの意見です。資料４の p. 12 について、乗務員不足ということも大きな理由としてありますが、それを補完する住民ドライバーと自家用車を活用した移動サービスについて書いてあります。これに関しては安全確保ができる状態で、我々は事業として行っています。そのために人員管理であったり、健康管理や点呼であったり、アルコールチェッカーの活用であったり、車両の安全保全であったり、そういったものをすべて実施しなければならな

いという縛りの中で運行しています。

それから、来年の４月から時間管理等が変わってきます。更には残業できないといった労働者の縛りもあり、環境が一般ドライバーの方も同様に移動を職業としてされるのであれば、その辺りの事もきちんと担保できるということを証明されないといけません。我々としてもすべての責任は事業者にあるという中で安全を担保しながら営業していますので、軽々しく「白ナンバーでの運行」という話にならないでほしいというのが事業者からの願いです。

p. 13 の（５）に関しては、人員確保のためのご支援をいただければ幸いに思います。先般、国土交通省から人員確保における補助金が出ましたが、あまりに申請者が多くて大幅に減額をされました。それから最近の補助金に関するルールがかなり厳しくなっています。市からも独自の対策を考えていただくのはありがたいと思っております。

もう１点、p. 13 の（４）ですが、「交通事業の収益拡大につながる取組」として「新しい運賃制度の導入」とあります。タクシーと貸切バスの業界では新制度というものをつい最近聞いたばかりですので、どのようなイメージなのか具体的な案があれば教えていただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。支援制度については事務局から回答いただくということによろしいでしょうか。

【事務局】

運賃制度については、この後のアンケート調査に関する説明にも出てきますが、例えば乗り放題であったりサブスクリプション制度であったり、住民の皆さんがどのような取組を望まれているかということをまだ把握できていないところがあります。それはタクシーに限らず、路線バスやＪＲ福塩線についても言えることです。先程あった交通事業者間で利用できる共通定期等、どう取り組めば現在公共交通を利用していない方が利用したいと思われるような運賃制度ができるかを検討するために、この後ご説明する市民アンケート調査票の中で設問を設けています。それで方向が把握できればと思っています。運賃制度についてはそのような状況です。

自家用有償旅客運送、住民ドライバーについて補足させていただきますと、安易に白タクを広げるという訳ではなく、例えば現在協和元気センターで行っている自家用有償旅客運送についても、協和地区だけに限られているという問題もあります。それを市内までと言わず、別の地区まで広げるということや、ここ数年で出てきた事業者協力型の自家用有償旅客運送の制度を活用できないかということ等を考えているところです。タクシー会社の人員不足もある中で、白タクを広げていきたいという訳ではなく、こういったサービスが地域のニーズとマッチングするのかといったことを把握していきたいと思っております。

人材確保の支援として、各自治体も人材確保に対する補助や免許取得に対する支援を行ったり、求人サイトへの掲載の補助を行ったりといった取組をしています。人材不足は国全体の問題です。同じような取組では自治体間で人材の取り合いになってしまったり、他分野との取り合いになったりしています。そこについてはどのような手立てが一番良いのか、市民アンケート調査では把握できない部分がありますので、どのような制度やＰＲが適切なのか、検討していきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。おそらく府中市も移住や定住の促進事業も行われていると思います。私は移住定住と働き口はセットだと思っています。移住定住、就職等、市役所内の縦割りで取り組むのではなくセットでやっていくと変わっていくのではないかと思います。実施できそうなところから取り組んでいけば良いと思います。事業者側にだけ特別な手当ををするということはなかなか難しいと思うので、別の角度から取り組んでいく必要があるように感じます。

それから、先程のご提案にあった上下一府中間のどちらを乗っても同じ運賃という案は新しい運賃制度だと思いました。これまでもワンコインバスといった取組もされていますし、可能性は非常にあると感じます。それとあわせてダイヤを見直すと、恐らく移動がかなり改善されると思います。良い案だと思いますのでご検討をお願いします。

また、公共交通という言葉の定義を明確にする必要があると思います。市民の方は公共交通と言えば路線バスと鉄道かなと思うかもしれませんが。しかし乗合タクシーや自家用有償運送といった新しい形態の公共交通が増えています。そこは計画の最初にしっかりと書いてあると良いと思います。計画は市民に向けて発信するものですので、公共交通の定義についての説明は最初に必要と感じます。ご検討をお願いしたいと思います。

他にはありますか。

【委員】

行政の意見としてもありますが、私個人の意見としてお聞きいただければと思います。

まずは数字的な話として、資料3「公共交通の運行区間・区域、便数」がありますが、1便あたりの利用者数はわからないのでしょうか。利用者数に関する項目は付け加えられるのでしょうか。どのような需要状況なのかがわかれば教えていただきたいと思います。

先程住民による自家用有償運送のドライバーのお話がありましたが、ここ2、3日でもテレビで、また直近では今朝のラジオでも取り上げられていました。ライドシェアというワードで取り上げられていましたが、安全安心の面から運行事業者の管理が必要であることもお話にあがっていました。運転手の担い手不足という点から見ますと、どうしてもどこかに運転手のリソースを集中していかなければならない事態になった時に、運転手を回せないエリアが出てくると思います。そういったところに対してどうフォローしていくかという部分が、いわゆるライドシェアという概念だろうと思います。当然人の命を預かるという点から慎重に検討していかなくてはならないことだと思います。そこに運転手を回せないということであれば、こういった議論も避けて通れないという気がしています。

また、テレビでバスの運転について取り上げられていました。担い手不足の件で両備バスが一般の方を集めてバスの運転体験を行ったということで、体験された方からもぜひ考えてみたいというインタビューもありました。その中でバスを運行するバス車両数に対して、数ははっきりしていないのですが約1.3倍の運転手の数が必要という話でした。担い手不足もどの程度足りないのかを把握していく必要があると思いました。そのバス事業者だけの話かもしれませんが、朝夕のラッシュ時は運行本数も多く、それ以外の運行本数が少ない時間帯には賃金が出されていないということもあって、非常に安い賃金で乗客の命を預かってくださっているということをその番組を見た時に初めて知りました。運転手の待遇改善について、そこに対する補助が良いのか、あるいは運行本数を増やせる施策を打つのが良いのかということも非常に重要な点と考えます。また、その乗客のインタビューの中で

も「運賃が倍になっても良いので現状のダイヤを維持してほしい」という意見が出ていました。実際のサービスとして本当に運賃が安い方が良いのか、または現状のままで良いのかということは今後の市民アンケート調査からも含めニーズを把握し、議論することが重要だと思います。

【会長】

ありがとうございます。では、最初の1点について、便数だけでなく利用者数がわかれば事務局から回答をお願いします。

【事務局】

もちろん利用者数の把握はしております。コロナ禍以前の人数からコロナ禍後の今年度も含め、人数は把握していますが、詳細にありますので今回は省かせていただきました。本日のところでお示しできず申し訳ありません。

【会長】

資料3のp.3のところに公共交通網の図がありますが、上下駅から出ている公共交通について、特に三次方面はJR福塩線だけという理解で正しいのでしょうか。バス路線はないということですか。

【事務局】

こちらは例えば高速バスのピースライナーも上下駅を経由しています。こちらの図はデータを整理した上でできた図です。書面決議でお送りした図では庄原市に関連するバス等も通っています。その辺りは載せきれていない要素があります。これが全ての路線ではありません。

【会長】

わかりました。この図は主要な路線図ということで理解しました。

先程委員の議論であった話については、需要の平準化に取り組む必要があると思っています。病院には朝9:00に行かないといけないという観念が非常に強いと思っています。病院は11:30まで開いているし、午後も開いているところもあります。別に9:00に行かなくても良いのではないのでしょうかという働きかけをするのも良いと思います。例えば商業施設では14:00からタイムセールをしてもらい、その時に行けば半額で買えるようにすれば、需要が平準化されると思います。交通だけでなくまちづくりとの連携という話もあったと思いますが、縦割りでない議論はすべきだと思います。ぜひとも計画の中で位置づけていただきたいと思います。

【委員】

午前中が忙しくて昼から仕事が少なくなります。コアタイムは大体朝から夕方までの日勤の運転手が結構います。午後から暇になるので、洗車したりしています。平準化はぜひともお願いしたいところですが、何らかの道筋を作って対応していただければありがたいです。

もう1点、資料6-1のアンケートのp.7のタクシーの項目が4つありますが、今年度中に運賃改定に伴い予約に対する料金をいただくことを予定しております。これまで、例えば「朝9:00の受診予約をしたのでその時間の配車を予約する」ということに対応してきました。しかしコロナ禍により人員

も減ったうえに、この対応で早めに待機しておく必要があるなど、回転数を悪くする要因になっていました。そういった理由から料金をいただくことにしようとしています。せっかくなのでそれを開始した後にアンケート調査をしていただけるとありがたいと思いました。

【会長】

それは既に行う方向ですか。

【委員】

行う前提の話で進んでいます。最後の話し合いがまだ十分にできていないところがあったため、まだ時期が決まっていません。

【会長】

そうであればアンケート調査票にもその情報は書き込むのでしょうか。書き方は事務局とよく検討すべきことですが、先にこのアンケートでタクシー会社のタクシー利用の平準化を望む考えとその理由を書いておいて、市民に問いかけてどう思うか確認するのも良いと思います。

【事務局】

アンケート調査の内容についてはこの後に説明させていただきますが、仮説を設定してそれに対する回答を得るような形にしています。この予約料金に関する設問を入れることは可能です。この後にも他に何かご意見があれば伺いたいと思います。

【委員】

アンケート調査を行う期間はいつでしょうか。

【事務局】

この後アンケート調査票の内容を説明して皆さんからご意見を伺い、それを反映した後になりますので、10月中旬以降の発送を予定しています。締め切りは11月初旬に設定し、その後分析に入る予定です。可能であれば本日の内にご意見をいただけるとありがたく思います。

【会長】

話題がすでにアンケート調査の方に移っていますが、計画についてのご意見がまだあろうかと思います。時間が押しておりますので、他にご意見があれば直接事務局の方にご連絡いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

では後半のアンケート調査について議論を進めていきたいと思います。時間があまりありませんので、簡潔に説明をお願いします。

【バイタルリード】

○資料 6-1「市民アンケート調査票案」について説明

○資料 7「乗合タクシー利用者アンケート調査票案」について説明

【会長】

ありがとうございました。私の方からも説明させていただくと、今回のアンケート調査は、従来のものと比べて2つの大きな変更点があるということです。まず1点目はどちらの調査票も仮説検証型であることです。「もしこんなことをしたらどうでしょうか」と回答者に問うものです。例えば資料6-1の問11以降がそういった内容にあたります。事務局の案ですので、各委員の視点から何か「こういったことを聞いたらどうか」というようなご意見、ご提案等がありましたらお伺いしたく思いますのでよろしくお願いします。記載内容にも様々なご意見があるかと思いますが、まずは仮説検証型ということをご理解いただきたいと思います。資料7の問8も仮説検証型になっています。初見で急に意見を出すのはなかなか難しいことかとは思いますが、事務局から1週間程度でしたら猶予があるとのことですので、各委員の立場から「ぜひともこの仮説検証してもらいたい」という設問のアイデアがありましたら提案していただき、実のあるアンケート調査にしたいと思っております。その結果から計画の中に新しいスパイスとして盛り込むかどうかを議論できればと思います。ここが今回のアンケート調査の大きな違いの1点目です。そして2点目が資料6-2のようなチラシを作って市民の方々に公共交通の実態を理解していただきつつアンケート調査を行うという点です。

資料6-2中の路線図について、新市のところで青い線が切れているのですが、福山市方面に抜けるものですので線を伸ばしてほしいと思います。先程も申し上げたように、他にも運行する路線はあると思います。全ての路線が記載されているのではないということが分かるように書きぶりを工夫していただきたいと思います。

この場でアンケート調査票の内容について、ご意見等ありましたらお願いいたします。

【委員】

先程の説明ではこのアンケートを全世帯に配布するということでしょうか。

【事務局】

全世帯ではなく市内から抽出した6,000世帯です。抽出は無作為に行いますが、人口分布によって地域に偏りがあるといけませんので、資料4で説明したエリアごとに配布数を決めて配布します。

【委員】

ありがとうございます。世帯ごととなると高校生を対象にしていないように思います。バスやJRを利用するのは学生や高齢者が多いのではないかと思います。私は市内の高校生にもアンケートをされる方がよいのではないかと考えます。

【事務局】

説明のところで省略した部分になりますが、資料3の「これまで実施した調査等の内容」に記載している通り、高校生及び保護者を対象とした公共交通に関するアンケート調査は既に実施しておりま

す。市内の府中高校、府中東高校、上下高校の3校に実施しておりますが、府中高校と府中東高校は人数が多いため2年生のみに回答していただき、上下高校は全校生徒に回答していただきました。回答率は64.6%でした。保護者に対しても送迎に関する設問に回答していただき、送迎の実態の把握をしました。そのため今回の市民アンケートは18歳以上を対象にしております。

【委員】

資料6-1のp.8で、財政負担額が出ていて気になりました。これについては「多い」と思う方も「少ない」と思う方もいるかもしれません。物差しがないので非常に評価し難いと思います。例えば全国自治体のうち何位の額であるとか、何かしらの物差しがあるとわかりやすいのかなと感じました。

【事務局】

おっしゃる通りだと思いますので、記載できるものがあれば検討します。

【会長】

回答の誘導にならないように、記載する自治体と金額については偏りのない形で検討していただきたいと思います。

他にありますか。

改めてアンケート実施のスケジュールについて確認させていただきたいと思います。

委員の皆さんが意見を伝えられる猶予をどのくらいいただけるかということが重要ですが、いかがですか。

【バイタルリード】

当初の予定では今週中に調査票を入稿し、10月19日に発送というところでした。

アンケート調査票の内容についてのご意見は10月6日、または10月10日にはいただければと思います。その上でのアンケートの発送のタイミングは当初予定より2～3日ずれ込むと思われます。締め切りは11月5日頃として、そこから集計分析に入る予定で考えているところです。

【会長】

週末が3連休となりますので週末か週明けかはっきりさせておきたいですが、いかがでしょうか。

【事務局】

3連休中じっくり考えていただき、10月10日を締め切りとさせていただきたいと思います。

【会長】

では、アンケート調査の内容についてのご意見は10月10日を締め切りとして、お気づきの点、あるいは設問に関するご提案等がありましたら事務局までお寄せください。最終的な文言については事務局との調整になると思いますが、ぜひご意見を出していただきますようよろしくお願いします。

【事務局】

せっかくのアンケート調査ですので、委員の皆さんのご家族にもご覧いただきご意見をいただきたいと思います。調査票の表現等については、やはり交通関係者の視点に偏っているところもあると思います。ご家族から「専門用語の意味がわからない」といったご意見がありましたら、ぜひお知らせください。市民の皆さんがわかりやすく答えやすいアンケート調査にできればと思いますので、お手数をおかけしますがよろしくお願いいたします。

【会長】

バス停の「上屋」と記載されていても市民の皆さんはわからないかもしれません。「屋根」とした方がわかりやすいかもしれないといったことかと思います。言葉についてもよく確認していただけたらと思います。

他にご意見等がありますか。

【委員】

アンケート調査の項目として入れていいものかわかりかねるところですが、今までの交通事業者の皆さんからのお話の中で、運転手不足に言及されていました。今回のアンケートはどちらかというと「どうやって利用を促進するか、どうすれば利用が増えるか」といったアイディアを得ることに主眼を置いているものと思いますが、公共交通の運転手不足について市民の皆さんがどの程度認識しているかが聞けたら良いと感じました。ただ、2024 年問題について書いてもなかなか理解できないことと思います。もう少し柔らかい表現で担い手不足について記載し、現状の公共交通を維持することも難しい状況であることを伝えると良いかと思いますが、難しいでしょうか。

【事務局】

その辺りの書きぶりは事務局で検討させていただきたいと思います。可能であれば、担い手不足について、市民のみなさんの認識を確認する設問を加える方向で考えたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。資料 6-1 の p. 8 にちょうど公共交通の維持、確保についての設問があります。現在の案ではお金に関することは書いてあります。ここに交通事業者の担い手不足の厳しい現状について、どこかの事例を引用しながら今後維持することが難しくなることを記載しても良いかと思います。また、資料 6-2 の裏面の公共交通の現状に「担い手不足が課題」と書いてある一方、グラフがありません。そのようなグラフか何かがあると良いかと思います。喫緊の課題ということをもっと強めに出すよう検討していただきたいです。

【会長】

本日のところは大体よろしいでしょうか。

アンケート調査についてご意見やご提案がありましたら 10 月 10 日までに事務局までご相談いただければと思います。先程ありましたように、専門用語が難しい箇所等のお気づきの点もありましたらお知らせください。

それから、前半の府中市地域公共交通計画の部分も議論し尽くしているとは思えません。こちらについてのご意見等がありましたらよろしくお願いいたします。

計画について、私からもう１点ほど伝えさせていただきたい点があります。資料３の「まちづくりの方針との整合」の３つ目の点についてです。ここに「府中駅周辺施設の整備も念頭に置き」とあります。おそらく上下駅も同様に「歩いて暮らせるまちづくり」が重要だと思います。書きぶりは「上下駅周辺」か「上下地区」が良いのかわかりませんが、上下についてもここで触れておいていただきたいと思います。最近の上下地区の観光ＰＲに力を入れていることもありますので、ぜひよろしくお願いいたします。

皆さんの方から全体を通じて何かご意見ありますでしょうか。

(ご意見なし)

無いようですので、以上で本日の議事は終了いたします。

資料を持ち帰っていただき、また内容を確認いただければと思います。

進行を事務局にお返します。

【事務局】

渡邊会長ありがとうございました。

皆さんには長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。次回は１１月に入ってから改めて協議会の招集をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、先程お話がありましたように、アンケートについてメールや電話、ＦＡＸ等何でも構いませんので、ご意見がありましたらご連絡いただきたいと思います。計画についてもご不明な点等何かありましたらお問合せください。よろしくお願いいたします。

次第の「３．その他」として、事務局より９月から募集を開始いたしましたバスの乗り方教室についてご報告させていただきます。

【事務局】

○資料８ 「バスの乗り方教室について」の取組のご報告

(委員からのご意見なし)

【事務局】

以上を持ちまして、令和５年度第３回府中市地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。

以上